

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 国語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原村学力調査の平均正答率は58.2%で、全国平均(67.5%)を下回っている。
- ・生活行動・学習活動調査では、「分からない言葉があれば、辞書を引いている」、「クロスワードなど、言葉を使ったパズルで遊ぶことがある」、「新聞記事などを、自分の考えと比べながら読んでいる」と回答した生徒が全国平均よりも低い。

【課題】

- ・基本的な知識・技能の定着

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

(課題) 既習事項の定着が二極化している。

(具体的な授業改善策)

- ・漢字テスト・テスト直しを継続して行う。
- ・分からない漢字は国語辞書を使って調べるように指導する。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・定期的に小テストを行い、学習の定着度を図る。
- ・「ミライシード」を活用し、既習事項の確認を行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①小テストを行い、生徒の定着度を確認する。

＜検証方法＞

- ①小テストや定期考査の「知識・技能」の正答率が80%を超えるかどうかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 社会科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

【結果から】

- ・全国平均(55.0%)に対して、正答率(45.1%)と大幅に下回っている。
- ・歴史的分野に課題があり、基礎的な知識が定着していない。
- ・予習・復習をする習慣が身に付いていない（特に予習をする生徒は22.6%に留まる）。
- ・地域の事情により新聞を読む習慣はなく、ニュースで社会の出来事を知る生徒も54.8%に留まる。

【課題】

- ・難解な用語が出てくる、近世以降の基礎・基本的な知識の定着

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・既習事項の定着において二極化の傾向がある。
- ・社会的な出来事への興味関心が低い。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・单元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。
- ・定期的にニュースレポートを課し、ニュースを見る習慣の定着を図っている。
- ・プレゼンテーションソフトや動画を活用して、興味関心が高まるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①小テストを毎回の授業で実施して、前時の知識の定着を図る。

＜検証方法＞

- ①2学期の評価で、「知識・技能」でAが付く生徒が30%を超えるかどうかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 理科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和4年度の村の学力調査の結果では、全国平均に対して10.7%下回っている。特に知識・技能の領域で大きく下回っている。

【課題】

・基礎的な知識を身に付けさせる必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

・計算問題の課題に定期的に取り組み、反復練習を行う。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・項目ごとに課題を示し、それに対する解答をノートに記述させる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①確認テストの実施。(知識・技能)

項目ごとに10分程度の確認テストを行う。

その場で答え合わせを行う。

次の時間に再テストを実施する。

<検証方法>

①再テストでの正答率で成果を確認する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・

・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの「授業に意欲的に取り組んだ」の項目で肯定的な意見が93%、あまりあてはまらないが7%となっている。その理由は「歌うことが嫌い」である。また「演奏などの活動に積極的に参加できている。」の項目での肯定的な意見は100%であった。定期考査に向けた学習に対しては肯定的な意見が70%、あてはまらない人の理由は『5教科を優先した』『やるのを忘れた』『当日まで勉強していなかった』などがある。

【課題】

- ・演奏の仕上げ方について、リーダーを中心として意識を高めることで、上級生としての自信を一層もたせること。
- ・実技に対する意欲はあるが、座学での『できる』を一層もたせること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【教科の課題・生徒の実態】

- ・課題に前向きに取り組む姿勢がある。
- ・互いに声を掛け合い、補い合おうとする学年の雰囲気がある。
- ・音楽経験・能力に個人差があり、個人で思考して表現する力に課題がある。

【具体的な授業改善策・補足的、発展的な改善内容】

- ・吹奏楽や合唱において、グループで協力して学習活動に取り組む方法を定着させ、個人差を縮める。

【成果・課題】

- ・グループ活動に協力して取り組む姿勢ができた。
- ・内容によっては、生徒が自主的に活動を進めることに課題がある。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・グループ練習の方法を生徒自身が見直す活動を行う。
- ・運指練習、録音、メトロノームとチューナーの活用、読譜練習を必要に応じて自分でできるようにして、グループ練習の進行に生かす。
- ・選曲の工夫で生徒の意欲を向上させる。自己の練習を効率的に進めて後輩指導の時間に充てる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①グループ練習の方法を生徒自身が見直す活動を行う。
- ②運指練習、録音、メトロノームとチューナーの活用、読譜練習を必要に応じて自分でできるようにして、グループ練習の進行に生かす。

＜検証方法＞

- ①練習毎に自己診断カードを記入させ、個人反省とグループ反省をすることで変容を見とる。
- ②運指練習の後にお互いの演奏を録音してアドバイスし合う。パート内で合わせるときはチューナーを活用してタイミングやリズムを合わせる。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 美術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・授業アンケートの「作品や提出物を期限内にきちんと提出している」という項目で、9.7%の生徒が「あまりあてはまらない」と回答しており、その理由が「出せなかった」「終わらなかった」などだった。
- ・授業アンケートの「定期考査に向けた学習に取り組んだ」という項目で「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒が25%おり、その理由が「5教科を優先したから」「論述以外勉強できなかった」「やるのを忘れる」などだった。

【課題】

- ・全員の作品をきちんと納得できるところまで終わらせること。
- ・定期考査の学習に対しての意欲を高めること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【教科の課題・生徒の実態】

- ・授業に意欲的に取り組んでいる。
- ・忘れ物が原因で、作業の進行に課題のある生徒がいる。
- ・作業に時間がかかる傾向がある。

【具体的な授業改善策・補足的、発展的な改善内容】

- ・忘れ物がないよう前日に声かけをしたり、連絡帳に書かせたりする。
- ・授業に集中して取り組む雰囲気づくりを行う。状況に応じて、放課後の補習の充実を図る。

【成果・課題】

- ・道具を学校で預かる形を取れる時は、忘れ物がなく進められた。連絡帳に書かせても厳しい部分はある。
- ・授業中に私語なく取り組める雰囲気は、まだない。リラックスした空気で制作することと、私語なく制作できる雰囲気を共存させたい。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・理論と実践は物事の両輪であると考え、「説明(理論)」→「実技」→「理論(定期考査)」という授業構成にしている。授業中に指導した「制作のポイント」に沿って評価をし、その説明をする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①制作が遅い生徒も多いので、授業中の机間指導を充実させるのと同時に、放課後の補習等で納得ができるところまで制作することで生まれる達成感や成就感をもたせていく。
- ②定期考査に向けて学習に意欲がわからない生徒もいるので、その足掛かりとしての補習は継続的に行う。また論述問題で興味のわく問題を出題する。

＜検証方法＞

- ①授業中の机間指導で進捗を見て、生徒の不安が大きくなる前に、場の設定をしていくことを繰り返す。
- ②テスト前に補習を行っているが、テストの結果で「補習に出てよかった」と思うようにしていくことを繰り返す。論述問題では、調べてみると新たな興味関心を高めるような課題を設定し、その解答状況を見ていく。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 保健体育科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの「定期考査に向けて学習に取り組みましたか」の回答は、あてはまるが80%、あてはまらないが20%であった。

【課題】

- ・各分野での基本的な技能を踏まえて、更なる技能の向上や発展的な内容を理解すること。
- ・仲間同士で伝え合い、聞き合うことで主体的に学習に取り組む態度を養うこと。
- ・自分ができたことを仲間に伝える方法やその内容について理解すること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・運動に対して積極的な生徒が多く、活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・個々の体格や体力の差が大きい。
- ・個々の生徒に応じて段階的に課題を設定することで、全体的な体力の向上を図ること。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・技能のポイントを明確にし、それを保障する運動場面の時間確保をすること。
- ・技能のポイントを教員と生徒、生徒同士が伝え合い、聞き合う場面を設定すること。
- ・各単元で学習カードを用いて、基本的な内容の理解を促し、仲間と振り返る際に使用すること。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①各単元の学習カードを用いて、教え合ったことを記入させ知識の定着やアドバイスをもらったことを踏まえて、主体的な学習へと繋げる。
- ②個々やグループに応じた練習場所等を設定し、更なる基本的な技能向上に役立てる。

＜検証方法＞

- ①2学期の授業アンケートにおいて、主体的に学習に取り組みましたかの項目において、80%を越えるかどうかで検証する。
- ②2学期の授業アンケートにおいて、授業内でできるようになりましたかの項目において、80%を越えるかどうかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・定期考査の平均点が10点ほど例年と比べて低い。

【課題】

- ・知識や理論についての少し難解な箇所であっても、興味関心を高くもち、理解度を高めること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・座学のときの集中力に課題があり、知識の定着に課題がある生徒もいる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・プリントの内容を簡潔にし、個別の生徒に対応しやすくする。
- ・動画にプリント、板書、パワーポイント、を利用し集中力が持続するようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①集中力が持続できるよう、動画や、プリントの内容を精査し授業を行う。

＜検証方法＞

- ①授業の最後にプリントを回収し、授業の理解度を確認する。プリントの記述内容に不備があれば、個別に対応する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 家庭科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・家庭科の学習は、すべて自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。
- ・授業アンケートでは、「定期考査に向けた学習に取り組んだ」の項目で「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が20%となり、その理由が「時間がなかった」「忘れていた」となっているため、授業への興味関心を高める。

【課題】

- ・作品製作や保育実習時に見通しを持って取り組む力を高める。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

- ・自分の意見を言語化して表現することに課題がある。

【改善策】

- ・より多様な意見に触れられるように話し合い活動を充実させる(ジグソー学習・模造紙の活用した発表等)。
- ・授業の最後にはまとめワークを毎回行い、自分の考えを具体的に言語化させていく。

【成果と課題】

- ・話し合い活動によって様々な見方・考え方に触れさせることができた。
- ・対話で自分の考えを伝えることはできるが、書いて伝えること的能力に課題がある。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・生徒に視覚的映像で興味関心をもたせている。
- ・見通しを持たせるために作品製作や保育実習の計画をワークシートで示し、1時間ごとの計画と振り返りを行うようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①保育実習のための活動はグループで行わせ、その中で役割を作り、無気力状態の生徒がいないようにする。
- ②1時間ごとの振り返りを詳細にワークシートに記入し、可視化する。

＜検証方法＞

- ①生徒観察と計画表、自己評価で行う。役割は「何をすべきなのか」を明確化させた後に、グループで実習準備を行う。毎時間自分たちのグループの進捗や課題を生徒たちに把握させるようにする。
- ②ワークシートと計画表で行う。毎時間の進捗と課題、次回進めるべきことを記入させ、活動に見通しをもたせる。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 英語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度村学力学習状況調査では、基礎の校内正答率が全国平均を7.8%、活用が1.5%下回った。問題内容では、単語の並べかえによる英作文の問題の校内正答率が全国平均より23.7%低かった。
- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、授業内容を「どちらかといえば分からない」「ほとんど分からない」と回答した生徒が約30%である。また「どちらかといえば得意ではない」「得意ではない」と回答した生徒が約65%であった。

【課題】

- ・文法項目を用いた英作文及び読解問題への応用力。
- ・学習進度の個別最適化。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・関連する項目の記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・新学習指導要領の実施に伴い、学習内容（語彙や文法等）が高度化した。そのため、先にリスニング及びスピーキングによるインプットとアウトプットの機会を多くし、表現に触れられる機会を増やす。その後、リーディングとライティングでのインプットアウトとアウトプットに繋げ、知識の定着を図る。
- ・読解問題では、文法に関する問題及び内容読解についての解説を個々の学習速度に合わせ、ICT 端末を活用する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①小テストや単元テストの実施による基礎的な知識・技能の定着を図る。
- ②ICT 端末を活用し、文法や読解に関する問題への学習活動の個別最適化を図る。

＜検証方法＞

- ①単元ごと、文法単位ごとに小テストを実施し、定期考査との差分を測り、更なる改善を図る。
- ②日々の授業での聞き取りや授業アンケートの回答から、生徒の学習への取組状況から検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】